



## 【韓国】 総合指数は週間で1.8%高と3週ぶり反発、北朝鮮懸念が後退

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.8%高と3週ぶりに反発。北朝鮮懸念が一服して総じて買い戻しが優勢。北朝鮮が9日の建国記念日に追加の挑発行動を見送ったことから地政学的リスクへの警戒感が後退し、週明けの11日は反発スタート。小反落した13日を除いて指数は上昇した。国連安全保障理事会が北朝鮮への新たな制裁決議を採択したことを受けて不透明感が払拭されたほか、連日の米株高も地合いの改善につながった。ただ、北朝鮮の報復行動に対する警戒や中韓関係の悪化への懸念が上値を抑える場面もあった。北朝鮮がミサイルを発射した15日は朝安後に上昇に転じ、8月8日以来、約5週ぶり高値で取引を終えた。今週は高値を試す展開か。地政学的リスクの後退に加え、企業の7-9月期決算への期待が相場を支えそうだ。

▼指数チャート



## 【ロシア】 RTS 指数は週間で0.3%高と5週続伸、今週は高値警戒でもみ合いか

### 先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で0.3%高と小幅に5週続伸。前週までの4週続伸で高値警戒感が強まり、振れ幅がやや拡大したが小幅ながらプラスで終えた。週明けから週半ばにかけては堅調で、12日には4月7日以来の1130ドル台を回復。その後は利益確定売りが優勢となり、14日には1112.43ドルまで下落したが、同日終盤にブレント原油価格が55ドル割れから55.99ドルまで上昇したことを支援材料に、一時的に1127ドル台まで上昇した。15日はロシア中央銀行が事前の予想通りに政策金利を従来の9.00%から8.50%に引き下げた直後に下落。中盤以降は買い戻され、一時は前日比でプラス圏に浮上したものの後が続かず、前日比0.2%安の1123.43ドルで週の取引を終了した。今週は利下げ直後だが高値警戒を背景にもみ合いか。

▼指数チャート



## 【ベトナム】 VN 指数は週間で0.6%高と4週続伸、今週は上昇トレンド持続か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間は0.6%高と4週続伸。前週に約9年7カ月ぶりに800ポイント台を回復した指数は、先週も総じて堅調。週序盤は800ポイントを割り込んだが、13日には主力銘柄を中心に買い戻され800ポイント台を回復。14日に807.29ポイントまで上昇し、9年7カ月ぶりの高値を更新した。フック首相がベトナム国家銀行(中央銀行)に貸出金利をさらに0.5ポイント引き下げるよう指示したことが支援材料。15日は朝方に北朝鮮が再び日本列島上空を通過する弾道ミサイルを発射したことを嫌気してマイナス圏で寄り付き、804ポイント前後でもみ合い。ただ、引け際に下落幅を縮め、前日比0.1%安の805.82ポイントで取引を終了した。個別ではベトジェットエアが5.7%高と指数を押し上げた。今週は上昇トレンド持続か。

▼指数チャート





## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.3%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催**

ジャカルタ総合指数は週間で 0.3%高と 3 週ぶりに反発。週央の反落を除き、堅調に推移した。週初の 11 日は 7 月の小売売上高が市場予想から下振れし、前年同月比 3.3%減と低迷したものの影響は軽微で指数は上昇。12 日まで 4 営業日続伸した後、13 日は反落したが、14 日に買い戻されると 15 日は 8 月の輸出が前年同月比 19.2%増と市場予想を大幅に上回ったことが好感され、続伸して引けた。今週は 22 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、政策金利は 10 会合ぶりに引き下げが実施された前月と同じ 4.50%に据え置かれるとの見方が優勢。21 日はイスラム暦新年の祝日で休場となる。

### ▼指数チャート



## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.6%安、今週は 8 月の非石油地場輸出が焦点**

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.6%安と続落。週後半の続落が響いた。12 日は 7 月の小売売上高が市場予想をやや上回り、前年同月比で 1.8%増加したことが好感されて指数は反発。ただ、13 日に反落したのに続き 14 日は中国の固定資産投資や鉱工業生産の伸びが予想から下振れしたことを受けて売られると、15 日は金融株を中心に下落し、3 日続落して取引を終えた。今週は 18 日に発表された 8 月の非石油地場輸出が市場予想を上回ったことに対する市場の反応が焦点。外部要因では北朝鮮の動向と国際社会の対応が注目されそうだ。NY ダウが 18 日まで 5 日連続で過去最高値を更新したことは好材料。

### ▼指数チャート



## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.5%高、15 日に 1994 年 1 月以来の高値を更新**

SET 指数は週間で 1.5%高と 5 週続伸。政情安定に対する期待の高まりが続く中、前週までの勢いを維持して上値を広げた。11 日は北朝鮮が前週末の建国記念日に合わせて実施することが警戒されていた追加の挑発行為が見送られた安心感で買われて指数は小幅に上昇。14 日は国際エネルギー機関 (IEA) が発表した月報で、石油在庫が世界的に縮小傾向にあるとの見方が示されたことを受けて資源株が買われ、指数は前日比で 1.0%上昇した。15 日は小幅に続伸し、終値では 1994 年 1 月以来の高値を更新して週の取引を終えた。今週は国内の重要イベントが少なく、19-20 日に開催される FOMC が注目される。

### ▼指数チャート



## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.4%高、今週は 20 日に 8 月の CPI 発表**

クアラルンプール総合指数は週間で 0.4%高と 3 週続伸。小幅なレンジでもみ合いが続いた。週初の 11 日は 7 月の鉱工業生産が前年同月比 6.1%増と市場予想から上振れしたことが好感されて反発。12 日はペトロナス・ガスが買われて指数上昇をけん引し、終値ベースで約 3 カ月ぶりの高値を更新した一方で、13 日に利益確定売りが出て値下がりすると、14 日は中国で発表された経済指標が軟調だったことが嫌気されて続落した。今週は 20 日に 8 月の CPI が発表される予定で、市場予想通りに物価上昇圧力の緩やかな低下が進めば、株式相場の追い風になりそうだ。22 日はイスラム暦新年の祝日のため休場。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。